

---

## 血栓止血の臨床—研修医のために

Thrombosis and Hemostasis in clinical medicine—  
practical guidance for residents

日本血栓止血学会理事長 池田 康夫  
(慶応義塾大学医学部)

日本血栓止血学会は昭和47年に「血栓及び止血に関する討議会」として発足し、その後昭和53年に日本血栓止血学会と改められ、平成元年には国際血栓止血学会を成功裡に開催した歴史を有する。平成19年の学術集会は第30回の記念大会であるが、この機会にその歩みを学会プログラムから振り返ってみると、当初は血小板機能・凝固因子測定などに関する話題が多く、その後血友病、フォンビルブランド病、血小板無力症などの出血性疾患に関する発表がみられるようになった。その後分子生物学・細胞生物学などの基礎医学の華々しい展開もあって、血小板・凝固因子・線溶因子の分子構造、構造・機能相関など基礎的に掘り下げた研究に大きな発展がみられた。最近では止血血栓形成のみならず、病的血栓形成のメカニズムの解明と共に心筋梗塞・脳梗塞等の動脈硬化を基盤として発症するアテローム血栓症にもスポットライトが当てられることになり、血栓止血学の学問領域は大きな拡がりを見せている。血栓止血学は既存の内科・外科・小児科等の基本診療科やそれぞれの subspecialty を横断する学問領域として発展して来た非常に重要な学問分野でありながら、卒前・卒後教育の中に十分組み込まれていないことから学生・研修医等にとってやや距離をおいてみられている。しかし、最近の血栓止血領域の研究論文・学会発表をみると、出血性疾患のみならず種々の血栓性疾患等日常臨床で重要な疾患に関するものが多く、臨床医として知っておくべきことが少なくない。そのような背景もあって、今回、日本血栓止血学会誌に研修医が日常臨床で疑問に思っていることに答え、わかりやすく出血性、血栓性疾患の病態、診断、治療を解説するシリーズを掲載することとした。若い医師がこの学問領域の面白さを十分に感じとって、将来の我国の血栓止血学を担う人材に育ててくれることを心から願うものである。

---